



鹿児島大学 男女共同参画推進センター

Newsletter

Vol.27

2020.11

編集・発行

国立大学法人鹿児島大学男女共同参画推進センター 〒890-8580 鹿児島市郡元1-21-24

TEL 099-285-3012 E-mail: gender@kuas.kagoshima-u.ac.jp <https://www.kagoshima-u.ac.jp/atsuhime/>

■ご挨拶 男女共同参画推進センター副センター長 郡山 千早（医歯学域医学系 教授）



今年度、本学は文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（先端型）」に選定されました。ある対談で、株式会社ポラ代表取締役社長の及川美紀氏が「可能性の扉は自動ドアじゃない」と述べておられました。この事業が一人でも多くの研究者の“可能性の扉”を開く後押しになることを願っておりますとともに、本学のプロジェクト名「WiSH PLUS」のWiSH (Women in Science for Health)のHIには（個人的には）Happinessの意味も含めたいと思っております。

新型コロナウイルス感染症流行という未曾有の難局の中でも、知恵を絞り行動する多くの人々の生命力を日々実感しております。微力ではございますが、私も皆様のhappinessが実現できますよう、センターを支えて参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

■取組紹介

研究支援員制度 後期（10月～3月）

令和2年度後期の支援が開始されました。後期の制度利用研究者は19人（研究者：男性5人、女性14人）で、25人の研究支援員を配置しました。

前期利用研究者（16人）からの報告書には、「研究支援員の存在が自分の研究への意欲を鼓舞してくれた」「研究以外の業務が増えたため、研究の支援があり研究の継続性が保たれた」「コロナウイルス騒動により、全く研究できない期間があったが、支援により何とか形にすることができた」などのコメントがありました。基本的な感染防止・拡大防止策を徹底しながら研究支援は実施されており、コロナ渦でもライフイベント期の研究者の生活時間の確保や研究キャリアの継続に寄与しています。

教員業務短期支援員制度

研究支援員制度募集期間中に、育児休業中等で申請することができない状況にある教員へのキャリア継続支援策として運用しています。最大3ヶ月間の利用で、研究支援員制度を補完するものとしています。配置時間は、申請者の状況により男女共同参画推進室で決定します。教員業務短期支援員の業務内容は、授業支援も含む大学業務への支援です。6月から利用した教員から感想が寄せられました。



育児休業からの復帰、コロナ渦で他県に住む家族や外部機関からの支援を得るのが難しく、育児と仕事における孤立状態の中、遠隔授業という新しい方法も習得しないといけなかったので大変でした。ICT環境も整える必要があり、その部分が得意な支援員の支援があり本当に助かりました。仕事を続けるのが難しかった時期もありましたが、雑業務等を支援してもらい、ひとまず乗り越えられました。このような支援がもっと充実してほしいと願っています。

介護相談会

令和2年度は、鹿児島市地域包括支援センター（長寿あんしん相談センター）からの相談員派遣により、2回実施することになりました。第1回目は、11月11日に実施、2人が利用しました。親の介護について相談した人からは、「悩みを聞いてもらえたことで気持ちが幾分か楽になり、利用できる制度やサービスを知ることで見通しをもつことができてよかった」との感想が寄せられました。

第2回目は、3月10日に開催されます。教職員だけでなく、家族からの相談も可能です。

*申込方法：男女共同参画推進センターへメール申込 申込締切：3月3日（水）



■令和2年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業（事業期間令和2年度～7年度） 「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（先端型）」に選定

鹿児島大学は、令和2年度科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（先端型）」に選定されました。事業期間は令和2年度から令和7年度までの6年間です。

本事業は、研究環境のダイバーシティを高め、優れた研究成果の創出につなげるため、先端型では、女性研究者の海外派遣や当該者の帰国後の活躍促進を通じた上位職登用の一層の促進や、女性研究者の国際的な研究による活躍促進を踏まえた広いダイバーシティ研究環境を形成する取組を支援する事業です。

また、本事業は、技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」（平成23～25）を契機に実施してきた研究支援員制度や保育支援制度等の取組を自主的に行っていることが前提です。さらに、女性研究者の活躍推進や女性研究者を含む若手研究者の育成・確保をはじめ総合的キャリアマネジメントとして、若手研究者への支援も必須としています。そのため、本学で実施してきた男女共同参画に係る取組を継続しつつ、本事業では、URAセンターやグローバルセンターと連携し、女性研究者や若手研究者を対象にした研究力や国際力向上の取組を実施します。

★取組概要

WISH PLUS

「鹿児島大学Women in Science for Health (WiSH)ダイバーシティ研究環境実現プロジェクト」

女性の潜在能力（Potential）を引き出し、女性研究者のリーダーシップ（Leadership）を培うために、大学一丸となった（Unity）ダイバーシティ研究環境を持続（Sustainability）する取組を実施する。

Potential

女性・若手の潜在能力を引き出す

- ・国際交流助成事業
- ・若手教員海外派遣支援事業
- ・研究力・国際力スキルアップ支援
- ・学外アドバイザー制度

Leadership

女性研究者のリーダーシップを培う

- ・異分野融合研究プロジェクト創出研究助成事業
- ・女性・若手大型種目チャレンジ支援事業
- ・国際共同研究促進事業
- ・「研究教授・研究准教授」制度

Unity

大学が一丸となり、ダイバーシティ研究環境づくりに取り組む

- ・女性研究者の採用に係る公募の工夫
- ・トップセミナー
- ・WiSH PLUSキャラバン

Sustainability

持続可能なダイバーシティ研究環境を構築する

- ・国際シンポジウム
- ・基金等の活用

★数値目標

- ・女性研究者在職比率を23%以上とする。
- ・上位職（教授・准教授）に占める女性教員の割合を15%以上とする。
- ・女性の研究者採用割合を30%以上とする。＊

＊第5期科学技術基本計画：自然科学系女性採用割合30%以上を前提とする。

★実施体制

ダイバーシティ研究環境実現のために、学長のリーダーシップの下、企画・検討は総務担当理事と研究・国際担当理事、WiSHワーキンググループ＊により行われ、学外アドバイザーとも連携します。

また、URAセンター、グローバルセンター、男女共同参画推進センター、関係事務担当課が連携・協働しつつ、全学協力体制で取り組みます。

＊WiSH WG：「健康」「ライフサイエンス」をキーワードに複数部局の女性により平成30年に設置。

★令和2年度事業計画

新型コロナウイルス感染症による影響も鑑み、海外派遣等の取組は来年度以降の実施とし、新設する制度等の検討を開始するとともに、数値目標の達成やダイバーシティ研究環境の実現に向けて、トップセミナーやキックオフシンポジウムの開催、研究費助成、WiSH PLUSキャラバン等を実施します。

中村 真樹 准教授（法文教育学域 臨床心理学系）

2006年3月 九州大学大学院人間環境学府人間共生システム専攻心理臨床学
コース博士後期課程単位取得後満期退学
2006年4月 中村学園大学人間発達学部・中村学園大学短期大学部幼児保育
学科非常勤講師・宗像医師会病院小児科臨床心理士等
2008年4月 長崎純心大学児童保育学科（助教）
2010年4月 長崎純心大学児童保育学科（講師）
2016年4月 長崎純心大学児童保育学科（准教授）
2017年4月 現職

鹿大の女性研究者に
Close-up!

★研究テーマは何ですか？

学生時代から、幼児期や児童期の対人関係の発達に興味がありました。幼児が遊びを続けるためにどのようなやりとりを発展させていくのか、という疑問からスタートし、対人関係の発達における躓きをもつ発達障害児・者の認知特性や支援方法について研究するようになりました。現在は、発達障害児・者の家族や支援者への支援についても関心を持っています。

★研究者を目指した理由を教えてください。

最初は、研究を通して自分の中でもややもやとしていたものを形にするプロセスが面白いな、と思ったことがきっかけです。なぜだろう、どうしてだろう、と思ったことを、他の人と共有できることが魅力だと感じました。

★研究で苦労することはありますか？

グループアプローチなど実際に人と会うことで始まる研究をしているので、フィールドの確保が一つの課題です。勤務先が変わり、住む場所が変わった時に、それまでのフィールドを維持できなくなることがありました。そのことは、研究に協力してくださっていた方々への感謝の気持ちをより一層実感できる経験にもなりました。

★モットーは何ですか？

「人とのつながりを大切すること」、「look on the bright side（前向きに物事を考える）」です。

★これから研究者をめざそうとする人への

メッセージ

同じものを見ても、何に興味を持つかは一人ひとり違います。学生時代は、自分の心に浮かぶ「なぜ?」「どうして?」という直感を大切にしてください。素朴な疑問の先に、皆さんを夢中にさせる研究のテーマが待っているかもしれません。



臨床活動の際に
持参するノート

←学会会場
(Amsterdam) にて

■臨床心理学系における男女共同参画の取組について

宇都宮 敦浩 法文教育学域 臨床心理学系長



臨床心理学研究科は、高度専門職業人である臨床心理士養成を目的とした専門職大学院であり、令和3年度に開設15年目を迎えます。平成30年度からは、新たに誕生した公認心理師の受験資格にも対応したカリキュラムを整備しました。修了生は、医療、福祉、教育、司法・矯正等の各分野で必要とされている心理職として就職しており、現在も第一線の現場で活躍を続けています。さて、当研究科専任教員における女性研究者比率は62.5%（令和2年度現在）であり、高い水準を維持しています。それぞれに臨床心理分野における優れた研究業績や教育実績を有していることはもとより、副研究科長や附設心理臨床相談室長といった管理運営に直結する重要なポストも女性研究者が担っています。入試委員長や教務委員長に関しましても同様であり、女性教員によって研究科組織が支えられていると言っても過言ではありません。また、当研究科は女子学生の比率が非常に高く、例年80%近い数値を示しており、彼女たちにとっては、女性教員が活躍している姿そのものが、修了後のキャリア形成意識を高めることに繋がり、ロールモデルとして機能していることもうかがわれます。就職に関する相談のほか、妊娠、出産、育児といったライフイベントに関する相談に関しても、ゼミの時間等を活用して丁寧な対応がなされており、教員と学生の日常的な交流そのものが男女共同参画推進に繋がっていると考えています。さらに、会議日は原則として水曜日のみと定め、17時までにすべての会議を終了するように心がけており、こうしたワークライフバランスに関する取組についても、引き続き努めてまいりたいと思います。

■学内の取組紹介～女子生徒への働きかけ

1. 科学実験体験企画について 小山 佳一教授（理学部）からの寄稿



実験中の様子

10月3日（土）の午後に、日本学術振興会 ひらめき☆ときめきサイエンス 2020「きらきら☆ニョキニョキ結晶の不思議を解き明かせ！」を実施し、中学生6人（うち女子2人）、高校生23人（うち女子7人）の参加がありました。

新型コロナウイルス感染症感染防止対策授業ガイドラインに沿って、クイズ形式講義と結晶に関わる実験を行いました。また、ロールモデルとして、社会人となった教え子（女性）から、大学1年生から大学院修了までの研究活動、アメリカ留学、メーカー就職へのキャリア形成の過程や自分の成長を感じたこと等の紹介をしてもらいました。

理学は自然の真理の追究で、そこに男女の差はありません。新発見、未知を理解できる感動にも男女差はありません。あるのは見えない壁（環境、特性、慣習、先入観など）です。大学人の社会貢献のひとつは、これらの壁を減らし、女性の進路選択を広げることではないかと思って、取り組んでいます。

2. オープンキャンパス「女子高生のための鹿大女子トーク！」について

企画担当の川端 訓代准教授（共通教育センター、アドミッションセンター兼務）にインタビュー

・企画の目的や内容を教えてください。

鹿児島県は、女子の高等教育への進学のうち、4年制大学への進学者は少なく（全国最下位）、本学への志願者及び入学者における女性比率は4割程度です。本学の現状分析の結果、女子生徒に4年制大学へ興味をもってもらう機会、分野選択への視野を広げてもらう機会を作る必要があることが分かりました。そうすることで、女子の志願者の割合を5割に上げ、優秀な学生の獲得や今はまだ少ない理工学部などへの女子増加にもつなげることを目的としています。企画では、まず全体会で、女子学部生から時間割サークル等の紹介がなされ、分科会では大学院生も混じり、研究や就職状況の紹介、受験に向けた学部選択や心構えなどについてのやりとりがなされていました。

・夏はオンライン、秋は対面での開催でしたが、参加の様子などについて教えてください。

夏はコロナ感染症の影響で高校の授業との重なり、参加者は少なかったものの、県外からや保護者の参加もあり、個別の対応ができ有意義でした。秋は県内と近隣県からの49人（うち保護者9人）の参加がありました。全体会では質問は出にくいでしたが、分科会では話が盛り上がっていました。参加者からは「多様な学部のことを知ることができてよかった」「大学ってどんなところかなと思っていたけれど、実際に話をきくことができて身近に感じた」「交流会で質問に答えてもらえて、参加してよかった」など、概ね好評価でした。ただ、「もっと交流する時間がほしい。」との希望がありました。



秋のオープンキャンパス時の様子

・今後に向けたお考えを教えてください。

女子の進路選択には、塾の先生や教員、親（特に母親）の影響を受けています。鹿児島県では、女子は県内での進学や就職との意識も強いようです。そのような環境の中で育つ女子自身もそれが当たり前と思っているかもしれません。また、多様な分野で活躍する女性の身近なロールモデルが少ないので、大学としては、多様な学部の女子学生や社会人となって活躍する卒業生等の姿を可視化したり、交流できる機会を提供したりして、自分の興味関心を生かせる分野があることや大学進学が将来につながることを身近に感じてもらえるよう、企画を充実させ、時間や回数を増やしていけたらと考えています。

Information

・男女共同参画推進センターが運用しているメンター制度は、本学の大学院生・研究者・医員・研修医が、キャリア形成上の相談をすることができる制度です。

「相談申込」は、mentor@kuas.kagoshima-u.ac.jpまで

・ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（先端型）の取組として、トップセミナーを1月に開催予定です。また、その他の取組も、随時当センターHPでお知らせします。本事業への皆様のご理解とご協力、そして取組へのご参加をどうぞよろしくお願いします。

<https://www.kagoshima-u.ac.jp/atsumi/>



鹿児島大学郡元キャンパス内